

産業廃棄物処理計画書

2022年 8月 25日

（宛先）高崎市長

提出者

住所 群馬県 高崎市 台新田町 250 番地
 氏名 日本ケロッグ合同会社 高崎工場
 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名）
 工場長 松原 剛
 電話番号 027-346-1026

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日本ケロッグ合同会社 高崎工場
事業場の所在地	群馬県 高崎市 台新田町 250 番地
計画期間	2022年4月1日～2023年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	0979 その他のパン、菓子製造業
②事業の規模	70.8億円
③従業員数	120名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥→肥料化(委託)・脱水(委託)・焼却(委託)→再生/埋立 ・廃油→焼却(委託)→再生/埋立 ・廃プラスチック類→破碎(委託)→再生/埋立 ・木くず→破碎(委託)→再生 ・動植物性残渣→飼料化(委託)・焼却(委託)→再生/埋立 ・混合廃棄物→破碎(委託)→再生/埋立 ・廃乾電池→分離(委託)→再生/埋立 ・廃蛍光灯→破碎(委託)→再生/埋立



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

廃棄物管理責任者： [REDACTED]



廃棄物管理請負責任者： [REDACTED]

- ・ 廃棄実績管理
- ・ 収集運搬管理



場内廃棄物実務者： [REDACTED]

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	[REDACTED]
	排出量	別紙1の通り
	(これまでに実施した取組) ○ 廃プラスチック類→生産ロス削減 ○ 動植物性残渣→生産ロス削減	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	[REDACTED]
	排出量	別紙1の通り
	(今後実施する予定の取組) ○ 廃プラスチック類→引き続き生産ロス削減に取り組む ○ 動植物性残渣→引き続き生産ロス削減に取り組む	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ○ 動植物性残渣→異物を取り除き飼料化
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ○ 動植物性残渣→分別基準をさらに細分化し飼料化への割合増

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 特に実施していない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) ○廃プラスチック類→優良認定処理業者への処理委託 ○動植物性残渣→異物除去により飼料として売却			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	○廃プラスチック類→優良認定処理業者への処理委託 ○動植物性残渣→更なる分類の徹底により飼料として売却の継続		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状							
【前年度（ 2021 年度）実績】							
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木くず	動植物性 残渣	混合 廃棄物	乾電池 蛍光灯
排出量	237.63 t	5.42 t	141.87 t	7.15 t	1051.51t	5.61 t	0.13t

②計画							
【計画】							
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木くず	動植物性 残渣	混合 廃棄物	乾電池 蛍光灯
排出量	235 t	5 t	140 t	7 t	946t	5 t	0.2t

別紙 2

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状							
【前年度（ 2021 年度）実績】							
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木くず	動植物性 残渣	混合 廃棄物	乾電池 蛍光灯
全 処 理 委 託 量	237.63 t	5.42 t	141.87 t	7.15 t	1051.51t	5.61 t	0.13t
優良認定処理業者 への処理委託量	14.8 t	5.42 t	79.74 t		140.02 t	5.61 t	
再生利用業者への 処 理 委 託 量	222.83 t		62.13	7.15 t	0.61 t		0.13 t
認定熱回収業者へ の 処 理 委 託 量							
認定熱回収業以外 の熱回収を行う業 者への処理委託量							

② 計画							
【目標】							
産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木くず	動植物性 残渣	混合 廃棄物	乾電池 蛍光灯
全 処 理 委 託 量	235 t	5 t	140 t	7 t	946t	5 t	0.2t
優良認定処理業者 への処理委託量	15 t	5 t	80 t		945 t	5 t	
再生利用業者への 処 理 委 託 量	220 t		60 t	7 t	1 t		0.2 t
認定熱回収業者へ の 処 理 委 託 量							
認定熱回収業以外 の熱回収を行う業 者への処理委託量							